

### (3) 乳児死亡及び新生児死亡

乳児死亡数は111人で、前年より7人減少した。乳児死亡率は出生千人に対し2.0で、前年より0.1ポイント低下した。

乳児死亡のうち新生児死亡数は、48人で前年より6人減少した。新生児死亡率は出生千人に対し0.9で、前年より0.1ポイント低下した。

全国は、乳児死亡率が前年より0.2ポイント低下し1.9、新生児死亡率が前年と同率の0.9であった。(表-20、図-16、図-17)

表-20 乳児死亡及び新生児死亡の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	
乳児	数	埼玉県	1 523	1 348	1 232	1 015	558	369	280
		全国	49 293	33 742	25 412	19 103	11 841	7 899	5 616
	率	埼玉県	35.1	20.2	13.5	10.6	7.4	5.5	4.4
		全国	30.7	18.5	13.1	10.0	7.5	5.5	4.6
新生児	数	埼玉県	955	931	869	673	369	228	168
		全国	27 362	21 260	16 742	12 912	7 796	4 910	3 179
	率	埼玉県	22.0	14.0	9.5	7.0	4.9	3.4	2.7
		全国	17.0	11.7	8.7	6.8	4.9	3.4	2.6

		7	12	17	22	25	26	27	
乳児	数	埼玉県	257	210	137	133	114	118	111
		全国	5 054	3 830	2 958	2 450	2 185	2 080	1 916
	率	埼玉県	3.8	3.2	2.3	2.2	2.0	2.1	2.0
		全国	4.3	3.2	2.8	2.3	2.1	2.1	1.9
新生児	数	埼玉県	124	105	61	62	50	54	48
		全国	2 615	2 106	1 510	1 167	1 026	952	902
	率	埼玉県	1.8	1.6	1.0	1.0	0.9	1.0	0.9
		全国	2.2	1.8	1.4	1.1	1.0	0.9	0.9

注：率は出生千対である。

図-16 乳児死亡率の年次推移  
(埼玉県・全国)

乳児死亡率(出生千対)

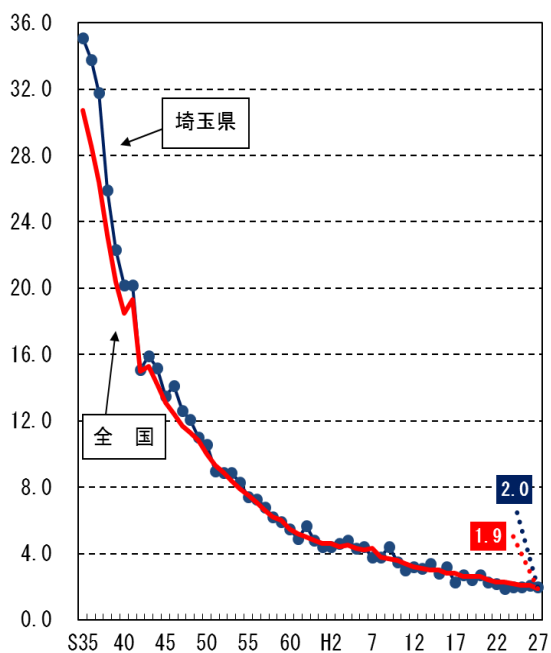
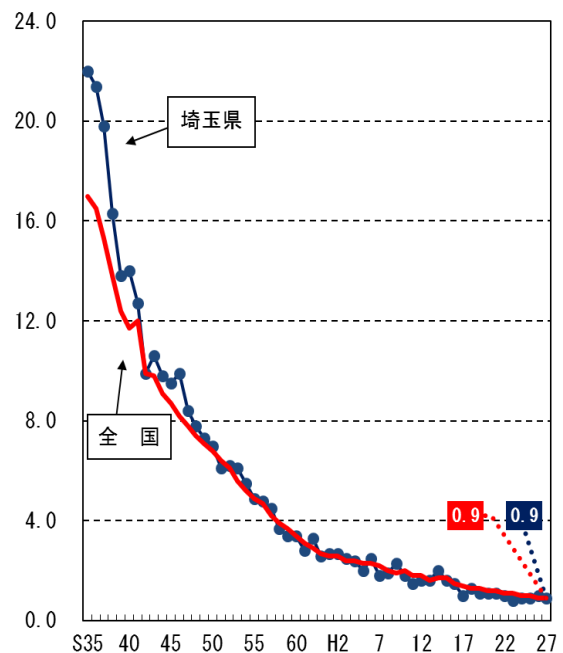


図-17 新生児死亡率の年次推移  
(埼玉県・全国)

新生児死亡率(出生千対)



#### (4) 自然増減

自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は△6,488人で、前年の△5,504人より984人減少し、平成24年に戦後初めて増加から減少に転じて以降、4年連続しての減少となった。

年次推移をみると、第2次ベビーブーム期の昭和46～49年には75,000人を超えていたがその後急激に減少し、平成15年に20,000人を、平成20年から10,000人を割っていた。

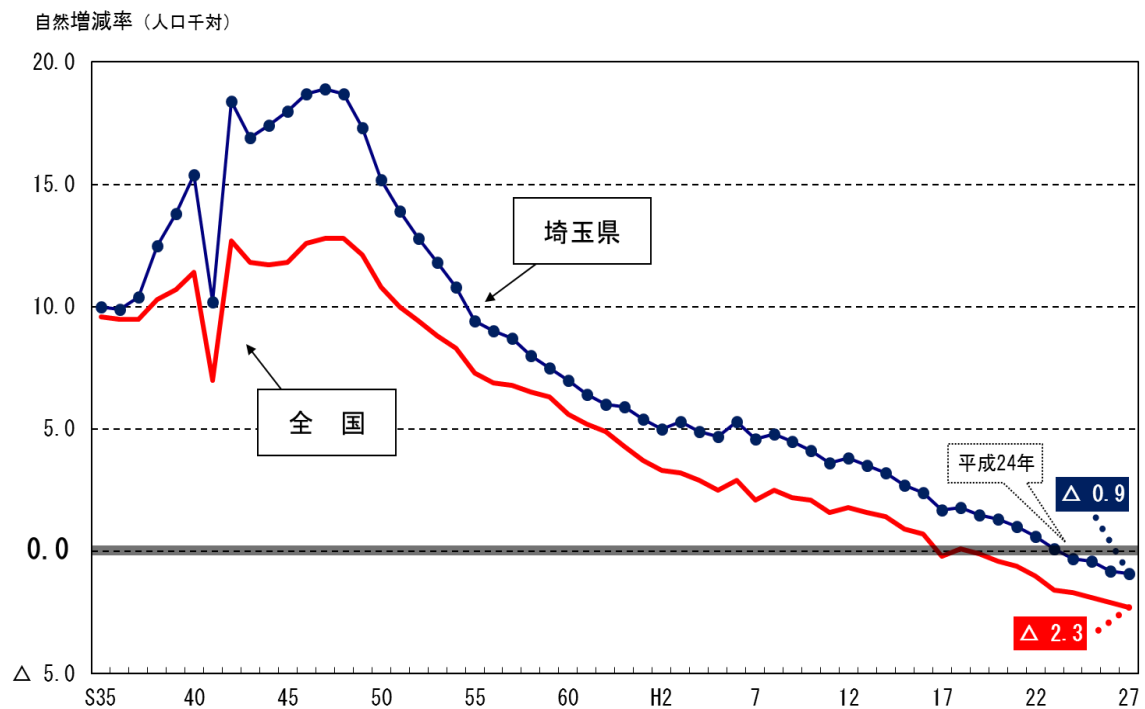
自然増減率は人口千人に対し△0.9で、前年より0.1ポイント低下した。全国は前年より0.2ポイント低下し△2.3であった。（表-21、図-18）

表-21 自然増減数及び自然増減率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	24 332	46 468	69 277	73 345	50 961	40 843	32 077
	全国	899 442	1 123 259	1 221 277	1 199 165	854 088	679 294	401 280
率	埼玉県	10.0	15.4	18.0	15.2	9.4	7.0	5.0
	全国	9.6	11.4	11.8	10.8	7.3	5.6	3.3
		7	12	17	22	25	26	27
数	埼玉県	30 951	25 890	11 636	3 950	△ 2 794	△ 5 504	△ 6 488
	全国	264 925	228 894	△ 21 266	△ 125 708	△ 238 620	△ 269 465	△ 284 767
率	埼玉県	4.6	3.8	1.7	0.6	△ 0.4	△ 0.8	△ 0.9
	全国	2.1	1.8	△ 0.2	△ 1.0	△ 1.9	△ 2.1	△ 2.3

注：率は人口千対である。

図-18 自然増減率の年次推移（埼玉県・全国）



市町村別にみると、高率順では、和光市（5.1）、戸田市（5.1）、朝霞市（3.7）の順である。

また、低率順では、東秩父村（△14.8）、小鹿野町（△14.6）、長瀨町（△10.8）の順である。

自然増減数・率がマイナスの市町村は、前年より1市減少して63市町村中46市町村であった。（表-22、図-19）

表-22 市町村別にみた自然増減率（高率順） 埼玉県

順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率
1	和光市	5.1	22	入間市	△ 1.4	43	嵐山町	△ 4.8
2	戸田市	5.1	23	坂戸市	△ 1.4	44	本庄市	△ 4.9
3	朝霞市	3.7	24	蕨市	△ 1.5	45	羽生市	△ 5.0
4	吉川市	2.7	25	蓮田市	△ 1.9	46	毛呂山町	△ 5.3
5	伊奈町	2.4	26	東松山市	△ 1.9	47	川島町	△ 5.3
6	八潮市	2.1	27	桶川市	△ 1.9	48	幸手市	△ 5.5
7	志木市	1.7	28	鴻巣市	△ 1.9	49	行田市	△ 5.5
8	滑川町	0.9	29	春日部市	△ 2.2	50	寄居町	△ 6.2
9	富士見市	0.8	30	三芳町	△ 2.8	51	秩父市	△ 6.6
10	さいたま市	0.7	31	久喜市	△ 2.9	52	吉見町	△ 7.2
11	新座市	0.5	32	日高市	△ 3.0	53	鳩山町	△ 7.7
12	三郷市	0.4	33	北本市	△ 3.2	54	神川町	△ 7.8
13	ふじみ野市	0.4	34	狭山市	△ 3.2	55	美里町	△ 8.2
14	鶴ヶ島市	0.2	35	熊谷市	△ 3.4	56	越生町	△ 8.2
15	越谷市	0.2	36	深谷市	△ 3.4	57	小川町	△ 8.6
16	川口市	0.1	37	上里町	△ 3.5	58	ときがわ町	△ 8.7
17	所沢市	0.1	38	宮代町	△ 3.6	59	皆野町	△ 10.1
18	草加市	△ 0.5	39	松伏町	△ 4.0	60	横瀬町	△ 10.4
19	上尾市	△ 0.6	40	杉戸町	△ 4.1	61	長瀨町	△ 10.8
20	川越市	△ 1.1	41	飯能市	△ 4.2	62	小鹿野町	△ 14.6
21	白岡市	△ 1.1	42	加須市	△ 4.6	63	東秩父村	△ 14.8

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮。

図-19 自然増減率（人口千対）—市町村別状況—

